

【生薬名】 荊芥[㊦] *SCHIZONEPETAE HERBA*

荊芥穂 *SCHIZONEPETAE SPICA*

【起源植物】 ケイガイ *Schizonepeta tenuifolia* var. *japonica*



【科名】 シソ科 *Labiatae*

【別名】 假蘇（神農本草経）、伏荊芥、秋荊芥

【薬用部分】 地上部、花穂

【主成分】 精油、モノテルペン配糖体、フラボノイド配糖体、モノテルペノイド

【薬性】 気味辛微温、帰経は肺肝に属す

【効能】 ●去風解表、止血の効能がある、表を解し風を散ずる

●辛温解表薬に属し、弱い発汗作用がある

●透疹、感冒、頭痛、麻疹、風疹、腫れ物の初期などに

●風邪で発熱し咽が腫れ痛む、おでき、湿疹や麻疹、蕁麻疹など
全草または花穂 1日5～10g（水400ml）を10～20分程煎じて服用

●発汗には薄荷葉、連翹、桑白皮を配合する

●皮膚炎には桔梗、石膏、連翹を配合する

●精油成分には血行を良くし炎症を取り、腫毒を消すのでおでき
等の皮膚の疾患に用いる

●1日2～3g、単味では余り使わず、主に漢方処方に配合する

【出典】 ●荊芥 味辛、能く頭目を清くし汗を表し、風を祛り瘡を治し瘀を消す。（薬性歌）

●假蘇（荊芥） 味辛温、主寒熱、鼠瘻癰癤生瘡、破結聚氣、下惡血、
除湿痺。（神農本草経中品）

【備考】 ●アトピーや湿疹などの皮膚疾患に荊芥連翹のペアで加味して使
うと効果的だが、解表作用のためにアトピーなどの湿疹では一
時的に悪化する事がある

●荊芥の茎を刻んだものが荊芥梗、香味薄くエキス含量有も低い

【処方例】 ●荊芥連翹湯、清上防風湯、駆風解毒湯、十味敗毒湯、当帰飲子